29Y-am01

小学生以下の児童を対象とした薬剤師業務体験学習「Kids Pharmacy」が薬局業務の理解および薬剤師の仕事への興味に与える影響についての検討

〇高橋　寛[1], 宮形　慶子[1], 安保　和彦[1], 越前谷　仁美[1], 遠藤　洋介[1], 近江　健[1], 瀬田川　一則[1], 袰岩　靖子[1], 安場　俊行[1], 吉田　裕一[1], 佐々木　克也[1], 佐々木　修[1], 波多江　崇[2]（[1]秋田県薬剤師会 学術委員会, [2]神戸薬大 薬学臨床教育センター）

目的：薬剤師業務の理解と薬剤師に対し興味を持ってもらう目的で小学生以下の児童を対象に調剤業務を体験学習する「Kids Pharmacy」を企画し、このイベントが児童に与えた影響を検討した。

方法：小学生以下の児童（2 才～12 才）を対象に、薬局における処方せん受付から渡薬までの一連の業務を体験した。具体的には、模擬処方せんおよびお菓子などで薬剤を代用し、処方せん受付から、錠剤の一包化、散薬秤量と分包、2 種類の軟膏の混合、水剤の調製について、本物の調剤機器を利用した。服薬指導では児童が薬剤師役、保護者に患者役になってもらった。全ての業務を体験後、児童 200 名に対しアンケート調査を行い、個々の質問に対し、5段階（非常にそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない）から回答を選択してもらい体験学習が与える影響について検討した。（回収率 96.5%）

結果：「体験イベントは楽しかったですか？」、「薬剤師の仕事の内容が少しでもわかっていただけましたか？」、「今回の体験は将来に役に立つと思いますか？」に対しては、それぞれ 91%、72%、69%が非常にそう思うと回答した。体験後は、他の職種に比べ薬剤師になりたいと思う児童は増加していた。さらには、薬剤師になりたいと思った要因に調剤業務の中でも特に服薬指導（渡薬）を楽しかったと回答したことと関連性が高いことがわかった。

考察：今回の結果から、薬剤師業務体験学習は薬剤師の仕事の内容を理解してもらう方策として非常に有効であることがわかった。また、保護者に対する服薬指導の経験により児童が薬剤師を目指すきっかけとなることがわかり、薬剤調製業務以上に影響を与えることがわかった。